ＪＲ東海労ニュース

№１７９３
２０１３年２月８日
ＪＲ東海労働組合

出向先会社との団交はけしからん？？
ユニオン松尾委員長がトンチンカンな批判展開！

昨年11月に新幹線地本が行った出向先会社｛新幹線メンテナンス東海株式会社（ＳＭＴ）、新幹線エンジニアリング株式会社（ＳＥＫ）｝との団体交渉に対し、ＪＲ東海ユニオン松尾委員長が『旬刊ＡＣＣＥＳＳ』355号誌面上で喰ってかかりました。しかも、私たちＪＲ東海労を「革マル派組合」と罵（ののし）り、出向先会社に「革マル派組合」を結成する意図があるなどと、トンチンカンな主張を展開しています。断じて許せません。

第355号<2013.2.1>　旬刊　ACCESS

員が奮闘する姿を見ることができ、頼もしく思う半面、当事者からは日々手探りで模索しているとの声も多く聞いています。
ユニオンカレッジやハンドブックなども大事ですが、何よりも日々の活動の中で役員の発掘・育成を図っていくことこそ大切です。今、役員を担っておられる皆さんの脳裏には必ず印象に残る先輩が2、3人は思い浮かぶと思います。後輩は先輩の背中を見て育ちます。職場集会や諸会議に後輩を連れて行ったり、政治活動であれば後輩と一緒になってポスター貼りをするなどの取り組みをお願いします。
第3に、組合員間の交流、特にJR東海連合の仲間同士の交流を強化していきたい。JRという産業は多くのグループの仲間の協力で成り立っていますが、頭で理解していても実感できる機会はわずかです。多くの出会いの場を作り、連帯の輪と相手を思いやる気持ちを育み、組織強化につながるように努めていきたいと思います。
第4に、組織の展望について、しっかりとした方向性を確認していきたい。
JR東海ユニオンの中期目標「ユニオントライ」は5年目の折り返し点を迎え、この間の取り組みを各級機関で検証し、後半戦の取り組みを確認していきます。また、JR東海連合では、これまで運動の羅針盤となるものを策定していませんでしたが、加盟組織も22に上り、運動の一体性や求心力を求める声が強まってきたため、昨年に「JR東海連合運動のあり方検討委員会」を設置し、今年から具体的議論を展開していく予定です。JR東海グループにふさわしい連合体運動の方向性を確認し、民主的で健全な労連運動を展開していきたいと思います。
第5に、組織の拡大について。他労組は弱小になったとは言え組織拡大には本気で取り組んでおり、昨年は革マル派組合が出向組合員を抱えているという理由でグループ会社に直接団交を申し入れる事態も起きました。当該会社の経営陣を批判することで善良な社員への拡大を狙ったのは疑うべくもなく、労組未結成の会社なら、あわよくば革マル派組合を結成しようという意図も見え隠れしています。真面目に働く青年が共産党や革マル派の魔手にかかり針路を見失ってしまう悲劇を繰り返させてはなりません。
年初の行事が終われば我々は早速春闘の取り組みを開始します。我々はJR連合の中軸として、しっかり牽引役を担うことが期待されています。JR東海グループにふさわしい労働条件獲得に向け、生産性3原則に基づく業績の適正な配分を求めていきます。
今年の干支は「巳」、へび年です。結成20周年を踏まえ、新たな歩みに向かって雄々しく元気に脱皮する1年にしていきましょう。

労働組合が労働条件改善のために、労使交渉を行うことは当然のことです。それを否定するＪＲ東海ユニオン松尾委員長は、労働組合のイロハも知らないのでしょうか。それとも、多数派の労働組合が団体交渉すらやらない中、ＪＲ東海労に先を越されたことで面子が丸つぶれとなり、言いがかりをつけてきたのでしょうか。

いずれにしても、ＪＲ東海ユニオンという組合が組合員のために何もやらないことが証明されたといえます。

松尾委員長、労働組合が団交を行って何が問題なのですか！

労働条件改善のために労働組合はあるんですよ！